

# 持続可能な社会への 貢献を目指して

To Contribute toward a Sustainable Society

取締役  
R&D 本部 CM 研究所長  
福田光博

Mitsuhiko  
Fukuda



平素は『塗料の研究』をご愛読いただき、誠に有難うございます。小誌は弊社に於ける新技術、新製品開発の状況を皆様にお伝えするとともに、お客様とのコミュニケーションの一助となることを願って発行しております。皆様からの貴重なご意見、ご要望を心からお待ちしております。

研究開発を行うに当たり重要なことは、ひとつのことにこだわる執着力と固定概念に囚われない柔軟性かと思えます。執着力と柔軟性、一見相反する特質を必要とする所に研究開発の難しさがあるように思えます。そこで必要になってくるのが、将来の市場の動向を見通す先見性と実験データのばらつきに惑わされることなく物事の本質を掴む洞察力です。

この原稿を書いている時、独ハイリゲンダムで開かれているG8サミット会議で、日本が主導的役割を果たす中、温室効果ガスの排出量を2050年までに半減することを真剣に検討する内容の合意がなされたと聞きました。

現在、日本の環境破壊の程度は、その指標として用いられているエコロジカルフットプリントで表現すれば、4.3gha/人（一人当たり4.3haの面積の自然を踏みつけている）に達し、この値はもし世界中の人々が日本人と同じ経済活動をするると、地球2.4個分の自然が必要な計算になるようです。同様にアメリカの場合地球が5.3個必要と言われていました。

このような状況下で、持続可能な社会を目指すためには、環境と開発が共存する環境保全に配慮した開発が必要となっています。

塗料の研究開発に於いても環境対応が重要な柱と認識しており、今までにVOC（揮発性有機化合物）排出量を削減したハイソリッド塗料の開発、更にはVOCの代わりに水を用いた水性塗料やVOCを全く用いない粉体塗料を開発してお客様のご愛顧にお応えして参りました。

これまでは、塗料製造や塗装といった個々のステージでのVOCやCO<sub>2</sub>の削減に効果のある製品開発を行って参りましたが、これからは原料～塗料製造～塗装～廃棄までの塗料のライフサイクル全体を考えた環境対応製品やシステムを開発していくことが、研究開発に課せられた重要な課題と考えております。そういった観点から、バイオマス（生物由来）原料や生分解性原料を有効に活用することやリサイクル性を考慮した塗料の開発が重要になってくると考えております。

今回の『塗料の研究』にも、バイオマスに関する研究の一端をご紹介しますが、これからは新しい機能を持った塗料の開発と併せて環境に優しい塗料の研究開発に一層の努力をして参りたいと考えております。

弊社の社是にありますように、「顧客に満足される製品を供給することによって社会に貢献する」研究開発であり続けたいと願っております。

今後とも皆様のより一層のご支援、ご指導の程お願い申し上げます。